

#アジア競技大会のヨットで金メダル

ヨットのエンタープライズ級で、本学の後藤貴之君(学校教育学部四年)が見事に優勝し、金メダルを獲得した。

競技は、十月四日から十一日にかけて広島湾で行われ、ヨット部OBと組んだ「前田・後藤」組は、二位のバキスタン、三位のインドを抑え優勝した。(関連記事三十六頁)

#東千田本部跡地利用の論議始まる

本部跡地の利用計画策定調査検討委員会の初会合が、九月二十九日に広島市役所で開かれた。調査検討委員会は広島県、広島市、本学、中国財務局の担当部長や広島商工会議所の代表、学識経験者ら十二人で構成。

市と商工会議所がそれぞれの利用構想を説明。跡地にどんな機能を持たせるべきか、などの点について意見を出し合った。

次回は十一月に開き、県が開発構想を示す。年内に中間案をまとめ、来年三月までに報告書をつくる予定。

#附属学校の自己点検・評価報告書刊行

附属学校部自己点検・評価委員会(委員長 大槻和夫、附属小学校長、教育学部教授)から、「附属学校部 自己点検・評価実施報告書」1994が八月に刊行された。

装丁はA4判、百七十頁からなり、千部印刷された。第一部は「目的と使命」、第二部は「組織と運営」、第三部は「現状と課題」、第四部は「自己点検・評価への取り組み」、第五部が「今後の課題」の五部構成となっている。

この報告書では、附属学校の目的と使命を明確にし、附属学校の教育と研究の概要と特色を明らかにするとともに、附属学校の現状とこれからの課題の所在を明示している。

#工学部、シーズ技術調査報告書刊行

工学部は、「広島地域に存在しながらもその基礎技術、並びに応用技術は世界規模の実力を持

つ」(報告書はしがき)といわれており、工学部技術相談室(室長 長町三生教授)では、広く公開してもよいシーズ技術及び地域企業の発展に寄与する技術指導に関する技術調査を実施し、シーズ技術七十六件、技術指導五十一件が公表された。

技術相談室では、地域企業が技術開発・製品開発のシーズにふさわしいものを見つけることにより、また、共同研究や受託研究あるいは技術指導などにより、地域社会の発展の一助となることを期待している。

(注)シーズ(Siーズ) ニーズの反対語でこちらの方から提供しうる技術

#医学部附属病院、「特定機能病院」へ

医学部附属病院は、八月一日から「特定機能病院」と称することを承認された。

「特定機能病院」とは、改正医療法第4条の2で、「高度の医療を提供する能力を有すること」、「高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有すること」、「高度の医療に関する研修を行わせる能力を有すること」などが要件として挙げられており、今後は、これらの要件を満たすべく義務づけられるとともに、「他の病院又は診療所から紹介された患者に対し、医療を提供すること」などの任務を負うことになる。

#附属三原中学校、藤原さん、全国少年フェンシング大会中学女子の部で入賞

附属三原中学校二年A組 藤原仁美さんは、七月末に東京都で開催された全国大会中学女子の部で三位に入賞した。

一方、三原中学校では、十月二日から開催されているアジア競技大会のフェンシング(会場 三原市)を全校生徒が観戦するにあたっての学習会で、藤原さんが基本的な構えや技などを披露した。

藤原さんは、三原市内のフェンシング教室に通い腕を磨いていたもので、今後とも文字どおり「文武両道」に励む予定。

#第三十三回オマール忌いとなまれる

被爆南方特別留學生 故サイド・オマール氏の死後四十九年、建墓以来三十三回目の法要が、去る九月四日(日)、京都の洛北「圓光寺」において「オマールの墓を守る会」の主催により行われた。

法要には、当時留學生寮(興南寮)の寮監で、八月六日被爆死された永原敏夫教授のご子息の永原誠氏(京都橘女子大学教授)をはじめ、マレーシアからの留學生、地元京都市立修学院小学校の児童など八十人余りが参列。圓光寺古賀慶信住職の読経の後、献花・献水、焼香により故人を偲び追悼しました。

サイド・オマール氏は、南方特別留學生第一期生として、昭和十八年六月マレーシアから来日、広島文理科大学在学中興南寮で被爆した。被爆後、オマール氏は、行方不明になったニック・ユソフ氏(同期生で、被爆死し、五日市町光禅寺に埋葬されている。)を広島市内くまなく探し回り、また、多くの負傷者の看護等に献身的に活躍した後、帰国のため上京中、症状が悪化したため京都で途中下車し、京都帝国大学附属病院に入院したが、九月三日に原爆症で亡くなられたと聞いています。享年十九歳。

法要の後、「オマールの墓を守る会」の世話人である園部宏子さん(墓石を建立した故園部健吉氏夫人)とご長男の達夫さんは、オマールさんのお墓が、平和を祈念する人々の小さなモニュメントとなりつつあることを喜びとして

これからも見守っていききたい。また今年の法要は、死後四十九年、仏教界では五十回忌に当たると。五十回忌は故人と現世の縁が切れてしまう最後の法要となるが、核兵器がこの世にある限りオマールさんの法要は続けていきたいと、その思いを語られました。

オマール氏の人間性、心の豊かさ、人間愛、さらには平和の尊さを語り継いでいくためにも、永久に追悼していただきたいと思います。

墓石に碑文があり、次のように刻まれている。

オマール君
君はマレーから来る日本の広島に勉強しに来てくれた。
それなのに君を迎えたのは原爆だった。
嗚呼実に実に残念である。
君は君の事を忘れない日本人のあることを記憶していただきたい。

武者小路実篤
(庶務部庶務課長 松田恵治)



圓光寺での建墓以来33回目の法要